

Weekly Michael's News

<今週の聖句>

2017年5月8日発行 No.34

『すると、二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。二人は、「道で話しておられるとき、また聖書を説明して下さったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」と語り合った。』

(ルカによる福音書 24:32)

<小さな瞳に映る大きな希望!! KIU チャペルで聖ニコラス天使園の入園感謝礼拝を挙行!!>

4月の最後の金曜日、初夏を思わせる快晴の下でKIUチャペルは小さなお客様を迎えました!! 最も近い聖公会関係幼児福祉施設である聖ニコラス天使園の入園感謝礼拝を行いました。入園後、一カ月も経たない小さなお友達でしたが、お祈りが始まるとちゃんと目を閉じ、手を合わせてお祈りできている所に驚きと感動!! 前田理事長からも豊かな祝福を受ける事ができました。このような小さな存在をも愛し導かれる主の存在を感じる事のできる嬉しい一時に感謝します。



ふう、暑いぐらいのいい天気



上手にお祈りできました



聖歌を大きな声で賛美



祝福を祈られる前田理事長



最後にみんなでパチリ!! また遊びに来てね~ (^o^)/"

<静かなスタート...? いえいえ今年も礼拝は活況です!! お昼はぜひチャペルへ!!>

新年度が始まった4月。昨年よりも穏やかで静かなチャペルとなったように感じていましたが、後半にはAOやゼミ課題の学生さんを中心に出席者が増え、最終的には総出席者が425名、平均は28,3人でした。昨年度同様、今年度も多くの教員、そして新しく職員の方々も礼拝の奨励にご協力頂ける事になりました!! 楽しみですね!! 昨年度キリスト教センターを愛用してくれていた学生さんに加えて、聖書や礼拝、そしてサーバーにも関心をもって、センターを訪れてくれる新入生もいます。そんなみなさんの学生生活に資する場でありたいと願っています!!

＜先週のメッセージ＞

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

4月24日(月) テーマ:「あいさつの底力」

野間 光顕(チャプレン)

早いもので4月も最終週となり、新学期の落ち着かない初々しさも和らいできたが、同時に緊張からの疲れも出てくる頃でもある。私は前任校で、この時期に無理をし過ぎて体調を崩した生徒の対応に追われた苦い思い出がある。しかしそこから学内外のセミナー等に出席する機会が与えられ、落ち込む生徒への具体的なアプローチとして日常生活を大切にする事を学んだ。特に重要だったのが朝の「挨拶」だ。不安を抱える者の心の扉を開く「挨拶」の力。それは復活のイエスの姿にも描かれている。与えられた命の喜びを分かち合いながら共に歩いていきたい。

4月25日(火) 音楽礼拝 伊藤 純子(オルガニスト)

今年度初の音楽礼拝には40名近い礼拝出席者が与えられました!!
次週の火曜5月16日にも音楽礼拝を行います!! ぜひご出席下さい!!

4月26日(水) テーマ:「グローバル市民を目指して」

魚住 香子(経済学部)

最近「グローバル人材」という言葉を新聞等でよく目にする。日本政府も「グローバル人材育成戦略」を掲げ様々な施策を急速に推し進めているが、よく読むと国際人というよりはむしろ、流動的な世界経済の中で日本企業のために世界で闘う企業戦士の育成が想定されている。それに対して、「グローバル市民」(global citizen)という呼称があるのをご存知だろうか。これは国連やユネスコが提唱しているもので、ボーダレス化が進む現代において、「地球市民」として、多言語・多文化の中で共存し、個人としての責任感・使命感をもって地球社会に貢献するという発想に基づいている。

通訳者の鳥飼 玖美子氏は、グローバル市民の条件として次の4つを挙げる。1、「自らのアイデンティティの確立」。2、「異質性への寛容」。3、「言葉を通しての関係構築」。そして最後は「教養人であり、かつ専門性を持つ」。これらはそれぞれ関連しており、そこで鍵となるのは「多様性」と「寛容」、そして「言葉」の存在だ。神戸国際大学は、グローバル・キャンパス構想を掲げ、多様な海外留学プログラムを持ち、多くの留学生を様々な国から迎える事で、その絶好の訓練の場を提供している。「グローバルに考えローカルに動く」事のできる地球市民を目指し、地球全体を大きく思い描きながら、まずは身近にできる事から1歩を踏み出していこう。

4月27日(木) テーマ:「ロボットの人間化と人間のロボット化」 山本 克典(副学長)

先日、将棋の名人がPCに負けたというニュースに驚いた。私が学生の頃のPCは、記憶力がずば抜けている半面、人間のような判断力がなく、PCが人間を負かすのはまだまだ先と思っていた。しかし、行動記録を蓄積できる人工知能の登場で、失敗の経験を次に生かす事が可能になり、最近では人間のような感情表現をするものまで現れている。一方人間はどうか?バイト学生の接客を見ていると、文法的に間違った表現でも、マニュアルに則って繰り返し使っている状況をよく見る。人間は、ロボットではない。しっかり物事を考える「人間」でありたい。

4月28日(金) テーマ:「仕えられるためではなく、仕えるために」 前田 次郎(理事長)

先週、桜美林大学の副学長を務めた旧友の話をしたが、彼は同時にOECD(経済協力開発機構)でも役員を務めていた事がある。世界中を飛び回り、様々な形の支援(例えば道路を作ったり、水道を整備したり...)を行ってきた彼が、その働きの中から見出した真理が「仕える」生き方であった。これから先の世界を支えていくために「仕える」生き方は絶対不可欠である。それを抜きにどれだけ働いたとしても、必ずしっぺ返しが来る。建学の精神に「仕える」生き方を据えている神戸国際大学。そこに集う皆さんには、ぜひ「仕える」生き方を学んで欲しいと願う。

(文責:野間 光顕)